

飯田駅周辺を拠点とした観光等活性化に関する調査			
調査主体	長野県飯田市		
対象地域	長野県飯田市	対象となる 基盤整備分野	道路、都市

1. 調査の背景と目的

2027年度に開通が見込まれているリニア中央新幹線の飯田駅（仮称）（以下リニア新駅という）が当地域に設置されることとなった。リニア新駅は、JR飯田線のみならず中央自動車道や三遠南信自動車道などの高速道路網との結節により、より大きな効果を期待でき、地元飯田下伊那地域のみならず、長野県の南の玄関口、三遠南信地域の北の玄関口として、観光・地域の発展に広い期待ができる。

これまで、飯田市の道路ネットワークや公共交通ネットワークは、JR飯田線や主要施設が集積する中心市街地を拠点として形成してきたが、リニア新駅が郊外に設置されることが現実となり道路ネットワーク等の再構築の必要性が生じている。

このため本調査では、リニア新駅と主要施設（観光地・JR飯田線・高速道路）への効果的なアクセスの向上を図ることを目的として、リニア新駅への高速道路との検討も含めたアクセス道路の検討を行う。

一方で、南信州観光公社等では、リニア中央新幹線の開業を見据え、今までよりも広域なエリアへの観光情報PR等の企画や観光客増加の可能性を検討することから、本地域を含め、長野県域及び三遠地域を含む広範囲での経済活性化、民間活動促進につながる検討を行うものである。

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

本調査で実施項目は以下の通りである。

①アクセス道路の検討

- ・交通課題の整理を行い、高速道路との接続を含めたアクセス道路の整備効果や必要性の検討を行う。

②駅周辺整備検討

- ・リニア中央新幹線を活かして観光活性化を図るためには、リニア新駅の利便性を高め、駅を最大限に活用する事が必要ある。そこで、今後の駅の施設を検討するにあたり、駅前広場等リニア新駅に必要な施設・機能について、アンケート調査等を実施し検討を行う。

③観光と交通に関するアンケート調査

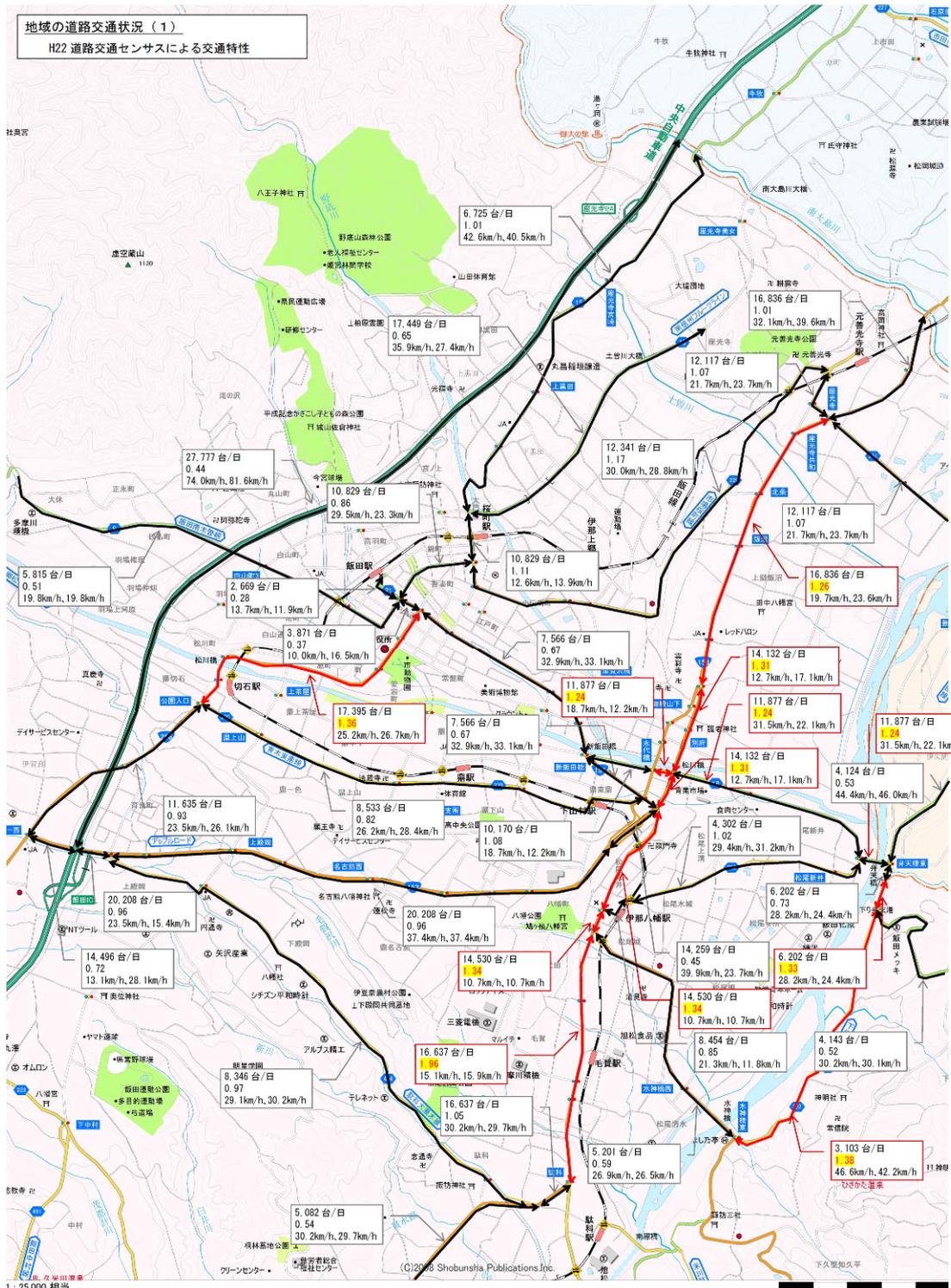
- ・主に東京、名古屋方面からの来訪者を対象に、飯田下伊那地域を訪れた目的や切っ掛け、来訪手段や来訪頻度といった「観光」や「交通」に関する実態をアンケート形式にて調査した。
- ・調査の主な目的は、①飯田下伊那地域における観光ニーズを把握すること、②東京、名古屋方面からの来訪者のリニア利用意向を把握することである。

(2) 調査結果

① アクセス道路の検討結果

○ 交通特性の課題

- ・平成 22 年道路交通センサスにおける交通量混雑度では、主に中心市街地へのアクセス道路の混雑度が 1.0 を超える路線や箇所が多い。加えて、市内中心部を南北に縦断する路線は、渋滞箇所が複数地点存在し、この内最大値が 1.96 を示す箇所もあることから、慢性的な渋滞が課題となっている。
- ・今後、リニア中央新幹線の開業により、駅位置が想定される北部方面への交通量の増加が考えられ、市内を南北に縦断する路線はリニア新駅へのアクセス道路として交通量の増加が予想される。



○整備効果

- ・リニア中央新幹線の整備計画に伴い、高速道路へのアクセス性を向上させることでリニア中央新幹線との二次交通の強化が図られる。
- ・新たな回遊型観光圏の形成による観光地の集客力向上と地域産業振興の支援など下記の整備効果が期待できる。

視点	期待される整備効果	定量評価
<u>I 地域産業</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域産業の活性化 ・搬送時のコスト、リスク縮減 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地までの時間短縮効果 ・荷痛み防止等による梱包コスト削減 ・出荷圏域の拡大 ・時間短縮による行きやすさが生む直販所等へのリピータの増加 ・時間短縮による物流コストの効率化 ・企業誘致による地域産業の活性化 ・搬送ルートを選択肢の追加 ・事故発生時等の新たな迂回路の構築（リスク回避） 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間差（整備有り無し） ・危険、渋滞区間の回避率 ・走行ルートにおける道路線形の改善率
<u>II 観光促進</u> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地までの新ルート構築 ・集客力の向上と地域活性化 ・新たな観光周遊ルートの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地までの時間短縮効果 ・観光地までのアクセス経路の選択肢の増加 ・日帰り観光圏域の拡大（2時間圏域 IC の拡大） ・観光周遊ルートの構築 ・立ち寄り場所の増加による産業振興の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間差（整備有り無し）
<u>III 救急医療</u> <ul style="list-style-type: none"> ・第3次緊急医療施設までの到達時間の短縮 ・患者への負担軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ・救急医療病院までの時間短縮効果 ・走行ルートの改善による患者への負担軽減 ・渋滞区間、事故危険区間の回避によるリスク回避 ・重篤患者に対する死亡率の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間差（整備有り無し） ・危険、渋滞区間の回避率 ・走行ルートにおける道路線形の改善率
<u>IV 暮らしの環境改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・渋滞緩和、事故危険箇所の回避 ・Co2 排出抑制などによる環境改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑区間、事故危険区間を回避した通行ルートの構築 ・道路の安全性向上による生活の安全性面の向上 ・公共施設までの時間短縮 ・走行性の向上による Co2 排出量の抑制 	<ul style="list-style-type: none"> ・所要時間差（整備有り無し） ・危険、渋滞区間の回避率
<u>V 地域災害防除</u> <ul style="list-style-type: none"> ・広域幹線道路へのアクセス性 ・防災拠点へのアクセス性 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域防災拠点までのアクセス性向上 ・緊急輸送道路のリダンダンシー ・災害復旧道路の構築 	

② 駅周辺整備検討

■ リニア中央新幹線を利用した場合に必要な整備

- ・アンケート調査結果等により、リニア新駅が開業した場合に、駅とのアクセス・イグレス手段として利用が想定されるのは、自動車、路線バス、タクシーである。そのため、リニア新駅における周辺整備については、バス関連施設、タクシー関連施設、自動車関連施設（駐車場）を中心として観光客の利便性の向上となる施設が必要と考える。

③ 観光と交通に関するアンケート結果

■ 観光に関する内容

- ・飯田下伊那地域の観光地としての魅力として「自然」「食べ物」「温泉」を挙げる方が多い。
- ・一方で観光地として不便に思う点としては、「当地域への交通の便」「当地域内の交通の便」「観光情報の不足」が多く挙げられた。

■ リニア中央新幹線の利用意向等に関する内容

- ・高速バスや JR 飯田線を使って飯田下伊那地域を訪れる方のうち、約 7 割が将来の当地域への移動手段としてリニア中央新幹線を利用する意向がある。
- ・リニア中央新幹線を利用すると回答した方の約 6 割がリニア中央新幹線の開業により、飯田下伊那地域を訪れる頻度が増すと回答している。増加頻度は年 1～2 回が多い。
- ・リニア中央新幹線の開業により、日帰りでの来訪が多くなると考える方は 7 割弱いる。
- ・当地域に設置予定の中間駅から目的地までの移動手段として、公共交通機関(電車及び路線バス)を希望する方が約 6 割にのぼる。
- ・一方でリニア中央新幹線を利用する場合に必要なと思う整備として、目的地までの道路整備を望む声も 5 割弱ある。

<アンケート結果より>

リニア中央新幹線の開業により当地域への交通の便が改善されることにより、当地域への来訪者の増加が見込まれる。当地域の魅力である「自然」「食べ物」「温泉」を十分に享受できるエリアを有機的に結びつける公共交通施策及び道路整備が求められる。また、さらなる観光客の呼び込みのためには今以上に PR やキャンペーンなど対外的な情報発信に努める必要がある。

3. 基盤整備の見込み・方向性

- ・リニア新駅へのアクセス道路となる路線について早期に機能強化を図っていく必要がある。
- ・また、市南東部の中山間地域においても、グリーンツーリズム受け入れ推進のための道路改良が必要である。
- ・アクセス道路の整備、高速道路との接続強化により、飯田市周辺地域に点在する観光施設への誘客力の向上を目的とした、中央自動車道、三遠南信自動車道と連携した新たな回遊型観光圏形成が期待できる。
- ・滞在時間の延長による日帰り観光圏域の拡大が期待できるため、より広域的な道路ネットワークの整備が必要となっている。
- ・道路整備を行うことで、渋滞や狭小幅員等の現況の交通課題が改善され、観光客が移動し

やすい環境が整備される。さらに移動時間の短縮化により多くの観光地を巡ることができる。

4. 今後の課題

- ・市全体のネットワークを考えた上で、整備必要路線の全体計画を決定し、そのうえで整備の優先順位を明確にしながら観光活性化に効果的な事業を推進していく必要がある。
- ・アクセス道路や駅周辺整備計画を適切な時期に示すことにより、民間会社が観光地への誘客についての計画・検討に取りかかることができるようにする。
- ・今後、観光地周辺の整備検討も可能となることにより、地域間の競争力を高めることが期待できる。リニア新駅が当地域の観光・交流拠点の一つとして、文化・産業など地域の資源を活用した地域づくりを行っていくために、広域的な地域の活性化に向けて取り組んでいく必要がある。